



西尾いきものふれあいの里だより

12月号

2025.12.1 発行

さとやま

12月の里といきもの



長期予報では、今年の12月は晴れの日が平年より多く、初旬は比較的穏やかなスタートですが、気温が徐々に下がり、下旬には真冬並みの寒気が南下する見込みで、暖冬というよりは「冬らしい冬」になるようです。ネイチャーセンター付近も写真のような風景になることでしょう。

そんな時期ですが、田んぼエリアの農機具小屋の側でこんな花が咲きます



バラ科に分類される常緑高木のビワは、中国南西部原産で、日本にも古くから帰化植物として自生しています。花は晩秋から冬に咲き、自家受粉が可能で、初夏に熟します。寒さにやや弱く、-3°C以下で幼果が落果することがあります。暑さには強いので温暖化には有利な植物と言えますね。



花は、枝先に円錐花序（ピラミッド型の花の集まり）という状態で、たくさん密集して咲きます。

5枚のがくは、褐色の毛が密生しています。この毛は、つぼみや若い花を寒さや乾燥から守るための防護機能を果たしています。白い花弁も5枚で、その内側に、20本の雄しべが、花の中心を囲むように並んでいます。雄しべが多数あるのはバラ科の植物の花の特徴です。中心には1本の雌しべがあります。

ビワは、果実が食べられるだけではなく、昔から様々に利用されていました。葉を患部に当てたり、さらに温めたり、煎じて飲んだりすることで、自然治癒力を高める効果があるとされ、ビワの葉療法と呼ばれています。

種子は、焼酎に漬けてエキスを抽出し、湿布や入浴剤として使います。ただ、口にするのは要注意で、「アミグダリン」という成分が体内で分解されると青酸（シアノ化合物）になる可能性があるため、粉末にしたり、甘露煮にして利用されますが、安全性を確保するためには専門的な知識が必要です。

また、この植物も冬に花をつけます



ウコギ科に分類されるヤツデです。名の由来は、葉が8つに裂けているように見えることからです。しかし、実際には、双子葉類の葉脈は必ず中心に1本、そして左右対称に出るので、奇数の7や9裂が多く、偶数の8裂にはまずなりません。古来8は漢字でハ、末広がりで縁起がよく、「八雲立つ」など、「沢山」という意味を表すので、そう名がついたと言われています。



花の咲き始めは、花弁が星のよう広がり、雄しべが発達し、花粉が出る雄性期、花弁を落とした後、雌しべの先が開く雌性期になります。こうして、自花受粉を避けています。花茎の下の方には、雄性期だけの集まりが少し遅れて咲きます。近くに他のヤツデがないときの保険でしょうか。

冬に花をつけるのは、寒いくて虫も少なく、受粉に不利なような気がしますが、別の種類の花が少ないので、花粉をつけた虫が次も同じ種類の花を訪れる場合が多く、受粉の確率が上がります。花粉を運ぶのは、越冬中のハエやアブが多いようです。

12月はこんな生きものも見られます

里では、小草池の水鳥のほかにも冬鳥がやって来ています。ヒタキ科に分類される**ジョウビタキ**は、大陸東部からやって来て越冬します。和服の「紋付羽織」の紋のような模様と、ピヨコンとお辞儀する仕草が人気です。

林で見られる**ネズミモチ**はモチノキの仲間ではなくモクセイ科に分類されます。黒く熟した果実がネズミの糞に似ており、葉の形がモチノキに似ていることから名付けられました。

木に絡みついているマツブサ科の常緑つる性木本、**サネカズラ**の変わった形の実は、赤みが増してきます。



初夏にプロペラのような花をつけていたキョウチクトウ科の常緑つる性木本**ティカカズラ**は、特徴的な二股の実が割れて、中から出た綿毛の付いた種子が、付近のものに引っ掛かっているのをみつけることができます。この綿毛は、タンポポのものと似ていますが、由来が違っています。

小草池横の道の梅畠では、ニシキギ科の**マユミ**の実が見られます。しなやかで粘りのある材質が弓の材料に使われたことから名が付きました。

ビオトープ上の池の上の水たまり付近では、シダ植物のハナヤスリ科に分類される**フユノハナワラビ**が群生しています。胞子をつける葉である胞子葉が、花のように見えるので名が付きました。胞子葉を触ると胞子がホコリのように舞い上がります。



万灯山へ向かう道では、どちらもキジカクシ科の常緑の多年草、**ジャノヒゲ**の青い実と、**キチジョウソウ**の赤い実が、細長い葉の奥に隠れているのを見つけることができます。

ジャノヒゲは、細く長い葉が蛇の髪のように見えることから名付けられました。リュウノヒゲの別名もあります。キチジョウソウは「吉事（よいこと）があると花が咲く」という言い伝えに由来していますが、花は毎年咲きます。

杉並木や万灯山エリアのあちこちでは、赤く実った**フユイチゴ**の実が見られます。バラ科の常緑つる性低木で、実の一つ一つに種が入っていてジャリジャリしますが、食べられます。

小春日和の日には、こんな冬らしい生き物たちを探して、里を散策してみませんか。

11月の行事紹介



「木の実草の実を探して里山を散策しよう」の講座を11月2日（日）に開催しました。

やっと秋らしくなり、少し冷たさを感じてきましたが、天気も良く自然の中を気持ちよく散策でき、40種類以上の木の実草の実を見つけることができました。（写真はホトトギスの観察）

アベマキ、クヌギ、コナラ、アラカシなどドングリにもいろいろな大きさ・形があり、引っ付いて種子を運ばせる草花（ひつつき虫）の引っ付き方にもいろいろあることを知りました。最後にあじわったアケビは甘くおいしかったです。

12月の行事予定

7日（日）	自然の素材でクリスマスリースを作ろう	20名	AM 9:30～11:30	磯貝はるみ
-------	--------------------	-----	---------------	-------

内容：植物の観察をしながらリースの材料を採集します。自然の素材を生かした、いきものふれあいの里ならではのクリスマスリースを作つてみましょう。

21日（日）	正月飾りを作ろう	20名	AM 9:30～11:30	当園職員
--------	----------	-----	---------------	------

内容：縁起よく新年を迎るために飾りたい正月飾りを作ります。里山の竹を使って「花器」を作り、縁起の良いとする松やセンリョウなどの飾りつけを行います。

※12月の各講座は、講座開催日に材料費（300円/1作品）を徴収します。なお、21日の講座のお申込みは、大人2人分までの材料とし、お子さま等は一緒に作るようご協力ください。

1月の行事予定

25日（日）	里山で野鳥を観察しよう	20名	AM 9:30～11:30	高田俊洋
--------	-------------	-----	---------------	------

内容：冬の里山で野鳥を観察します。北から渡ってきたカモの仲間を中心に里で冬を過ごす小鳥にも注目したいと思います。しっかりと防寒対策をしてお越しください。

- ◇ 参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が4名以下の場合は開講しません。
- ◇ 参加申込者は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ 当日の天候により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、参加費は無料ですが、講座により材料費は実費を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ 各講座の詳細な内容については、直接ネイチャーセンター

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28～1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課